

# 紙ふうせん

KAMIFUSEN No.94

成田市立図書館だより 第94号

2022(令和4)年 10月15日発行

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

☎ 0476-27-4646 (自動応答)

0476-27-2000 (直通)

FAX 0476-27-4641

2022(令和4)年7月21日  
(木曜日)、「なつやすみおは  
なしかい」を本館で開催し  
ました。

当日は、23名の方にご参  
加いただきました。大型絵  
本やパネルシアターをはじ  
め、たくさんのおはなしを、  
子どもたちと楽しみました。



2022(令和4)年7月26日(火曜日)、「杜  
のなつやすみおはなしかい」をもりんぴあ  
こうづMORI×MORIホールで開催しました。

当日は27名の方にご参加いただきました。  
ちょっと怖い絵本やおはなしに、子どもた  
ちは興味津々な様子で聞き入っていました。

## (紙面紹介)

- ・図書館講座「ひきこもりを理解する ー対話の試みー」

講師：斎藤環氏(筑波大学教授)

- ・コラム ブックポストに返却できます

- ・図書館講座「夫が脳で倒れたら ー社会復帰の記録ー」

講師：三澤慶子氏(ライター)、轟夕起夫氏(映画評論家)

- ・科学あそび講座「反射ってなんだろう ー水の万華鏡をつくろうー」

講師：坂口美佳子氏(科学読物研究会)

## 図書館講座「ひきこもりを理解する ー対話の試みー」

講師：斎藤環氏（筑波大学医学医療系・社会精神保健学教授）

2022.1.22（土）

ひきこもり問題の第一人者である斎藤環氏を講師に迎え、「ひきこもりを理解する ー対話の試みー」と題して講座を行いました。まん延防止等重点措置の発令を受け、講師は来館せず、会場スクリーンに映しての遠隔での講座という形となりました。

直接お話を伺えないのは残念ではありましたが、長年ひきこもり問題解決に向け第一線で活動してきた先生ならではの提言が語られ、言葉に込められた熱意は画面越しでも伝わるものがありました。ひきこもっている人はたまたま困難な状況にある普通の人であるということ、必要なのは説得や励ましではなく、互いに相手の思っていることを尊重した上での“対話”なのである、などの印象的な言葉が語られ、会場参加者38名、Zoom配信参加者最大52名がそれぞれ耳を傾けました。対話の試みについては、オープンダイアログという最新の対話手法の紹介もありました。講座の最後、Zoom上のみでの受付ではありませんでしたが質疑応答の時間が設けられ、各質問について先生により丁寧な回答がなされました。



斎藤先生の著書 ※全て図書館で借りることができます。

『社会的ひきこもり』 2020年 PHP 研究所

『ひきこもりのライフプラン 「親亡き後」をどうするか』 畠中雅子氏と共著 2020年 岩波書店

『まんが やってみたいくなるオープンダイアログ』 水谷緑氏と共著 2021年 医学書院

『いじめ加害者にどう対応するか 処罰と被害者優先のケア』 内田良氏と共著 2022年 岩波書店

### コラム ブックポストに返却できます

図書館が閉まっている時、また、勤務先の近くや出先で返したい時など、一部の資料※を除いて、市内各所のブックポストに返却できます。（※紙芝居、大型の本、CD、DVD、付録としてCDやCD-ROM等がついている本と雑誌、他自治体の図書館等から借りた本と雑誌）

ブックポストから回収し返却処理されるまでは貸出中の扱いになります。貸出・予約をしようとする際は、右記の表の回収予定日を参照の上、回収・返却までの時間差にご注意ください。

ブックポスト設置場所	回収予定日
本館・公津の杜分館 玉造公民館図書室 成田公民館図書室 遠山公民館図書室 大栄公民館図書室	翌開館日の午前
市役所本庁舎 1階玄関	本館開館日の火曜日 から金曜日（1日1回）
JR 成田駅	本館開館日（1日1回）

# 図書館講座「夫が脳で倒れたら ―社会復帰の記録―」

講師：三澤慶子氏（ライター）、轟夕起夫氏（映画評論家）  
2022.7.17（日）



講師のお話聞き入る会場



（左から）三澤慶子氏、轟夕起夫氏

ライターの三澤慶子氏と映画評論家の轟夕起夫氏をお迎えし、図書館講座「夫が脳で倒れたら ―社会復帰の記録―」を開催しました。本講座では、三澤氏の著書『夫が脳で倒れたら』（2019年、太田出版）を基に、夫の轟氏を襲った脳梗塞と後遺症、社会復帰までの経験を語っていただきました。

人により症状は異なるようですが、轟氏の場合は体に異変を感じて病院へ行くと、すぐに入院することになり、その日のうちに麻痺が急速に進行していきました。三澤氏は突然の事態に戸惑いながら、入院の諸手続きや、当時小学5年生と中学2年生だった子どものケア、轟氏の仕事関係の対応などに追われました。また、病気の情報を収集する中で目にした生存率などのデータに不安を覚えたとのことでした。

轟氏は、リハビリテーション病院に入院している間に仕事を再開しました。仕事に復帰したことで、リハビリをする意味や目標を見出すことができ、また、退院後の生活について少しずつ自信を持てるようになっていったとのことでした。

轟氏が脳梗塞で倒れて初めて分かったことや気が付いたことを、三澤氏と轟氏それぞれの立場からお話いただきました。当事者の不安な気持ちや辛さ、乗り越えるまでの過程を聞くことができた貴重な時間となりました。本講座の会場参加者は25名で、同時配信を行ったZoomの参加者は最大12名でした。

## 脳梗塞の闘病記

講師の著作以外の闘病記を紹介します。全て図書館で借りることができます。

『あれもできるよこれもできるよ』 堀内久美子 / 著 2021年 文芸社

『生還』 小林信彦 / 著 2019年 文藝春秋

『脳は回復する 高次脳機能障害からの脱出』 鈴木大介 / 著 2018年 新潮社

## 科学あそび講座



## 「反射ってなんだろう -水の万華鏡をつくろう-」



講師：坂口美佳子氏（科学読物研究会）2022.7.28（木）

今年度の講座は、「反射ってなんだろう -水の万華鏡をつくろう-」をテーマに行われました。集まった参加者は午前午後2回合わせて55名でした。

最初に反射について学びました。「自分の顔を見るときにどんなものを使う？」という先生の質問に対して、みなさん続々と手を挙げ、鏡、水、写真、黒くてピカピカの板！など、楽しそうにたくさん答えていました。

次に、鏡のしくみを知るために、自由に曲がる鏡を使って自分がどのように映るかを試しました。不思議な鏡に皆夢中で覗き込み、鏡の曲げ方を変える度に变化する自分の姿を、事前に立てた予想と比べながら楽しそうに観察していました。そして実験を通して、鏡は光がなめらかで平らな面に当たると規則正しく同じ向きにはね返るという反射（正反射）の性質によって物を映していることを学びました。



工作では、学んだ光の性質を活かし、水の万華鏡を作りました。3つに切った鏡の入った芯と、自分で選んだたくさんのビーズと水とのりが入った試験管を組み合わせて完成です。同じもので作ってもそれぞれ違うきれいなものになるので、できあがった作品を交換して覗き込んで、色々な万華鏡を楽しんでいました。

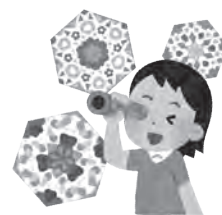
最後に先生におすすめの科学の本をたくさん教えてもらって、子どもたちは何冊も本を借りて行きました。反射という身近な科学について、楽しく学べるいい機会になりました。

参考になる本 ※全て図書館で借りることができます。

『かがみのサーカス』わたなべちなつ / 作 2016年 福音館書店

『楽しく作ろう！手作り万華鏡』豊田芳弘 / 監修 2015年 ブティック社

『珪藻美術館』奥修 / 文・写真 2020年 福音館書店



## 編集後記

今年7月に成田祇園祭が3年ぶりに開催され、市内にも活気が少しずつ戻ってまいりました。図書館でも感染症対策を行いながら、昨年度までより人数制限を緩和して講座やイベントを開催しています。今後も各種講座などの開催を予定しております。是非ご参加ください。

成田市立図書館だより	No.94
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3	
	☎0476(27)2000
発行日	2022.10.15
登録番号	成教図 22-020



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。